

生きよー！

御風ごふうのように

2026年撮影予定！

GVOLFU
ふるさとへかえ還るとき
～相馬そうま御風ぎょふうを訪ねて～

樋口大悟

池田良

脚本・監督:両沢和幸
プロデューサー:川田亮 榎本桜 音楽:鈴木周哉
協賛:新潟県糸魚川市



映画公式サイト
相馬御風 映画 検索

御風のように 生きよ！

成功を夢見て地方から都会へ出て行く若者は、
今も昔も存在する。
しかし成功はそう簡単に手に入らない。
手に入っても、それで幸せになれるとは限らない。
不安な現代に生きる人々に贈る、
全く新しい文豪ファンタジー！

ザ・ライフレッスン ～現代にも通じる人生の指針～

Point 01 御風から学べ！

人生の絶頂期ともいえる時に、なぜ御風は東京を離れ、家族を連れて故郷糸魚川に帰住したのか？故郷糸魚川で御風が見つけた新しい人生とは何なのか？都会を離れ故郷に戻って来た御風を迎えたのは、糸魚川の厳しくも優しい海と山であった。

Point 02 自然の中にこそ救いがある



糸魚川市には『相馬御風記念館』や『相馬御風宅』などの文化施設もある。糸魚川に古くから住む人にとっては良く知られた人物であろう。しかし近年、その存在と彼の業績は、それほど広く知られているとは思えない。この企画は映画というエンターテインメントを通じて『相馬御風』の存在と彼の功績、そして彼の生き方が現代にも通じる人生の指針となる事を広く知らしめる試みである。



相馬御風とは何者か？

新潟県糸魚川市に生まれ育った彼は、文学の道を志して上京した。まだ大学卒業間もない身で早稲田大学の校歌『都の西北』を作詞し、文学仲間を集めて、口語自由詩という新しい文学運動を起こした。誰もが一目置く文学者であり、論客であった。彼は東京で成功をつかみかけていた。しかし数え34歳の時に突然、それまで培った地位や名声をすべて投げ捨て、故郷糸魚川へ帰ってしまう。その時、自らの心境を書き綴った『還元録』という書物を自費出版し、関係者に配布した。その彼の行動は、文学的事件であった。

相馬 御風(そうま ごふう)

1883年(明治16年7月10日)～1950年(昭和25年5月8日)明治期から昭和期にかけての日本の文学者、詩人、歌人、評論家。本名は昌治。新潟県西頸城郡糸魚川町(現糸魚川市)出身。早稲田大学文学部文学科卒業。詩歌や評論のほか、早稲田大学校歌『都の西北』をはじめとした多くの校歌や、「春よ来い」などの童謡の作詞者としても知られている。



企画：樋口大悟

新潟県糸魚川市出身の俳優・モデル。空手三段。25歳の時に白血病を発症し、一度は良くなるも再発。その後、骨髄移植を受け、現在に至る。その鍛えられた身体を生かして、映画、CM、広告などを中心に活躍中。映画『みんな生きている～二つ目の誕生日～』(23)を自ら企画主演をし、全国30カ所以上の映画館で上映、テレビマスコミなど各方面で話題となり、評判の作品となる。

企画・脚本・監督：岡沢和幸

明治大学商学部卒業後、日活撮影所に入社。30本あまりの作品を助監督として経験後、フリーランスとなり人気テレビドラマや全国公開映画の脚本・監督・プロデュースを手掛ける。主な作品に『ナースのお仕事 ザ・ムービー』(02)、『KEEP ON ROCKIN'』(03)、『ベイビィ・ベイビィ・ベイビィ』(09)、『御手洗薫の愛と死』(14)などがある。樋口大悟とは前作『みんな生きている～二つ目の誕生日～』でもタッグを組み、話題を呼んだ。

2026年 新潟県糸魚川市で全編撮影予定！

映画公式サイト

相馬御風 映画 検索

